

平成28年8月6日(土)

しばやまいせき

芝山遺跡第15・16次現地説明会資料

調査場所 城陽市富野中ノ芝

調査期間 第15次 平成28年1月26日～平成28年3月3日
第16次 平成28年4月25日～平成28年8月10日(予定)公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-3
URL <http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

1. はじめに

芝山遺跡は、城陽市の東側に広がる丘陵の西端に立地しています。東西約950m、南北約840mの範囲に広がり、縄文時代から中世にかけての遺跡として知られています。遺跡内には芝山古墳群や梅の子塚1・2号墳も所在しています(第1図)。

平成13～15年度に実施した第10～14次調査では、今回の調査地より北西約300mの地点で真北に方向を揃えた建物群を検出しました。

また、今回の調査地のすぐ西側では、北西から南東方向にかけて平行する2条の溝が見つかり、奈良時代から平安時代にかけて(8世紀中頃～9世紀前半)の道路側溝と推定されています。

以上のような調査成果から、芝山遺跡は奈良時代の郡の役所や駅家(主要な諸道に設けられ役所で宿舎や運搬の馬を提供した)といった性格をもつ遺跡と推定されています。

今回の調査は新名神高速道路整備事業に伴い、平成27年度(第15次)、28年度(第16次)の2か年にわたって実施しました。調査面積は1,420㎡です。

2. 調査の概要

今回の調査では、飛鳥時代の土坑や奈良時代の掘立柱建物、柵、溝、土坑などを検出しました。**掘立柱建物** 7棟を復元することができました。建物の方位により大きく2群に分けること

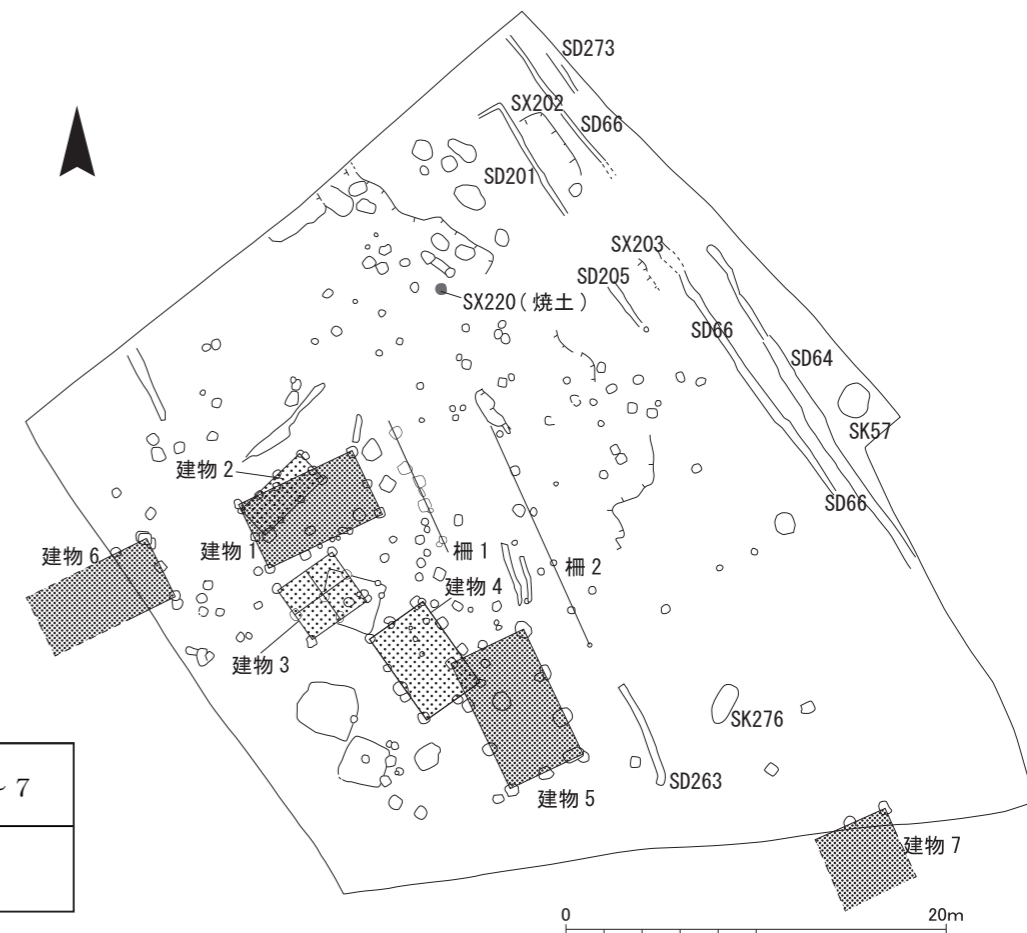


第1図 調査地位置図および周辺遺跡分布図(1/25,000 宇治)

ができ(I群・II群)、各群はそれぞれが同時期の建物群と考えられます。建物2の柱穴が建物1の柱穴を壊して掘られているので、II群の建物はI群よりも新しい建物群と判断されます。

I群 主軸が真北から西に約26°振れる建物群です。建物1・5～7があります。建物1は梁行2間(1.8m)、桁行3間(4.5m)の掘立柱建物で、建物6は建物1と梁行が並行し、北辺・南辺の位置が揃う建物と推定されます。建物5は梁行2間(3.6m)、桁行3間(7.2m)に復元でき、西辺の柱筋が建物1の東辺の柱筋と揃います。

II群 主軸が北から西に約35°振れる建物群です。調査地中央部の西側で検出した建物3は、2間(3m×3.6m)四方の総柱建物跡です。建物4は梁行2間、桁行3間に復元できます。少し方位が異なりますが、建物2は梁行1間(1.8m)、桁行3間(4.5m)に復元できます。



第2図 芝山遺跡検出遺構配置図

I群	建物1・5～7
II群	建物2～4

柵 柵1・2を検出しました。2条の柵は建物1・5などのI群の建物群と並行していますので、これらと同時期のものと判断されます。

溝 調査地の東辺の斜面地で、等高線に沿う溝SD64・66・201・273を検出しました。北西から南東方向に掘り込まれています。これらの溝は、東側の丘陵から流れ下る雨水を排水するために設けられたと考えます。

土坑等 土坑SK57は平面形が隅丸の方形で、規模は一辺1.7m、深さは約0.5mを測ります。埋土下層に拳大の円礫が厚さ30cmにわたって集中していました。円礫は、意図的に埋められたものと考えられます。礫とともに土師器・須恵器片のほか、平城京で出土する瓦と同じ模様をもつ軒平瓦の破片が出土しました。

土坑SK276は、調査地の南端近くで検出した遺構で、平面形は隅丸の長方形を呈し、規模は長さ約2.1m、幅約1m、深さ約0.15mを測ります。土坑の南西側の底面上で2点の完形の須恵器杯蓋が、口縁を上にした状態で出土しました。芝山遺跡第3次調査では、古墳の埋葬施設として土器を納めた土坑を検出していますの

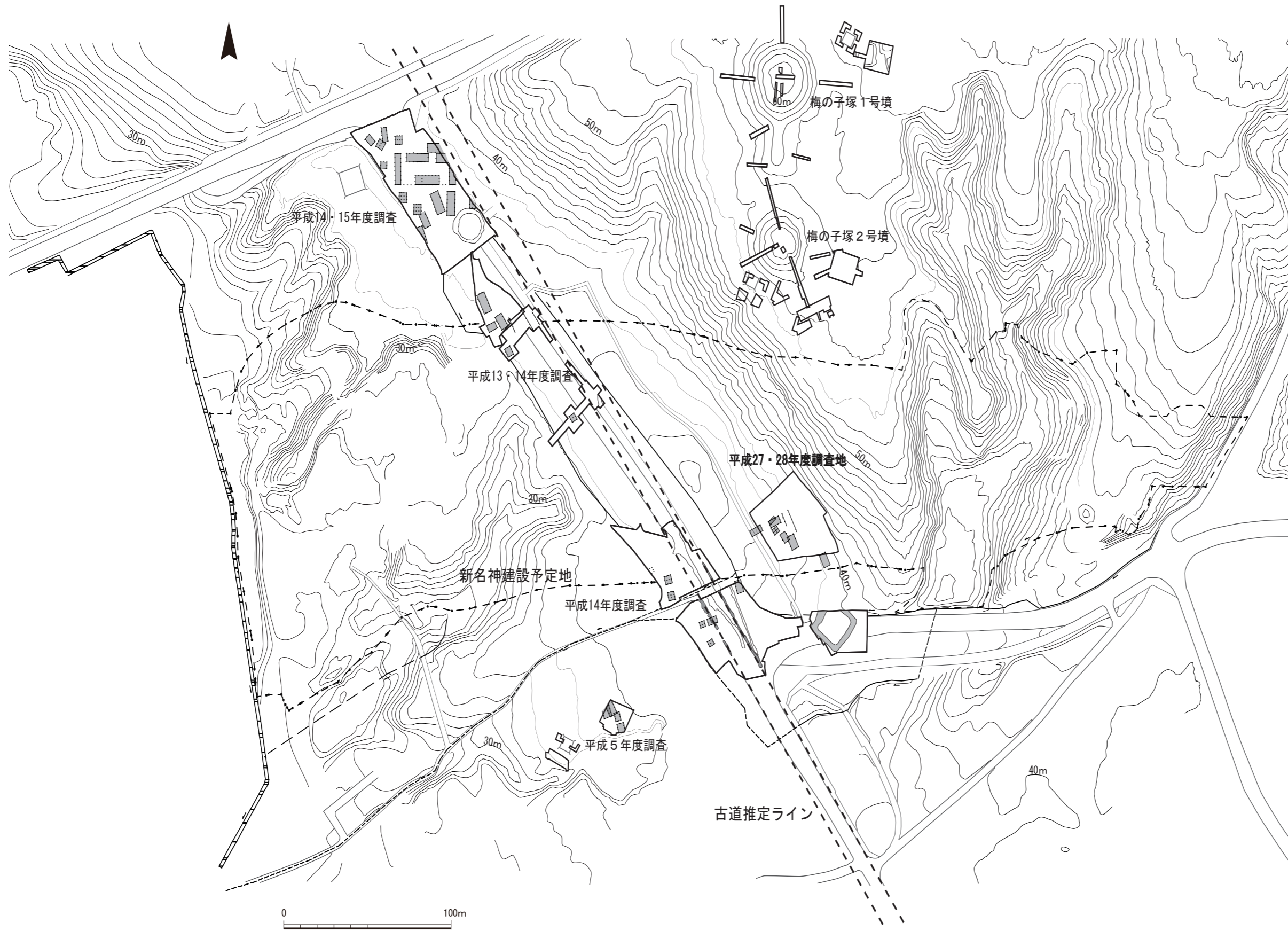
で、この土坑も墓である可能性があります。建物群よりやや古い、飛鳥時代のものと判断されます。

3. まとめ

今回の調査では、主軸を西に振る奈良時代の2時期の建物群が見つかりました。同様の主軸をもつ建物は遺跡の範囲で多く確認されています(第3図)。また、これらの建物は古道の方位に主軸を揃えている点が特徴的で、計画的に配置されているとみられます。

今回、検出した建物群は、周辺から瓦が出土していることから、一般集落とは異なり、公的な施設であった可能性が考えられます。建物群の性格について明確にすることはできませんでしたが、建物の規模から推定して、駅家等の官衙を構成する建物の一部、あるいは、官衙に出仕する官人の住居である可能性を考えることができます。

今回の調査は、奈良時代の古道とその周辺に展開する官衙の施設の様相を知る上で、貴重な成果となりました。



第3図 芝山遺跡 遺構配置図



写真1 調査地全景（南東上空から）



写真2 調査地全景（東側上空から）



写真3 調査地全景（南から）



写真4 建物5（南から）



写真5 土坑SK276（南から）